

令和3年度「全国学力・学習状況調査結果」概要 ～阿南市小中学校における学力の傾向と対策について～

阿南市教育委員会

この資料は、令和3年度全国学力・学習状況調査結果の分析をもとに、阿南市の子どもたちの学力や学習状況の傾向をまとめたものです。阿南市と全国の平均正答率を比較することによって、特に顕著であったものについて説明しています。

1 調査の概要

- 実施日 令和3年5月27日（木）
 - 調査対象 小学校第6学年の児童，中学校第3学年の生徒
 - 調査内容
 - ・学力調査：小学校（国語，算数），中学校（国語，数学）
- ※学習指導要領の，教科等の目標や内容は，
- ・生きて働く「知識及び技能」
 - ・未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」
 - ・学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力，人間性等」
- の三つの柱が相互に関係し合いながら育成されるものであるという考えに立つ
- ※「知識」と「活用」を一体的に調査問題として構成

2 小学校について

(1) 学力調査

① 全体的な傾向

- 1 国語では，正答率が全国平均よりやや下回りました。
- 2 算数では，正答率が全国平均よりやや上回りました。
- 3 無解答率は，国語・算数共に全国平均をやや下回りました。

② 結果分析等の概要

□ 国語

「目的や意図に応じて，理由を明確にしながら，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる」，「学年別漢字配当表に示されている漢字を文のなかで正しく使うことができる」ことなどの正答率が全国平均を上回っています。また，学習指導要領の内容別正答率では，読むことより書

くことの問題が正答率が高いです。また評価の観点別正答率では、思考・判断・表現の問題より、知識・技能の問題の正答率が高いです。

全国平均を大きく下回っていた設問で顕著な傾向が見られたのは、二点あります。まずは「目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える」と「自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える」のように「文章全体の構成や展開」を捉える設問です。書き手の意図を捉えながら文章を読ませる指導が必要と思われます。2点目は、「文の中における主語と述語の関係を捉える」と「文の中における修飾と被修飾の関係を捉える」設問です。文脈を捉えながら、主語や述語を意識して文章を書くことや、修飾語の働きを理解しながら文章を書かせる指導が必要です。いずれも総合的な国語力の向上に必要な要素と思われます。

□ 算数

「二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる」、「速さと道のりを基に、時間を求める式に表す」ことや「三角形の面積の求め方」「小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる」の設問等、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」の両面で全国平均を上回っています。全体的には、記述式の設問での正答率が高い傾向が見られます。

しかし、「条件に合う時刻を求める」、「データを二次元の表に分類整理することができる」、「集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することができる」等の設問についての正答率が全国平均を下回っています。これらはデータから情報を読み取ることに関連した設問であり、データの特徴や傾向を考えながら、適切な情報を読み取ることの指導が必要です。主体的・対話的な学びを実現する中で、それぞれの考えを共有しながら、結論を導く学習の推進が求められます。

(2) 質問紙調査

- 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」の数値は2年前に引き続き全国平均を大きく上回っています。しかしながら「人が困っているときは、進んで助ける」「自分にはよいところがある」の問に対する肯定的な回答の割合は、2年前は全国平均を上回っていましたが、今回は大きく下回っています。「難しいことにでも失敗を恐れなくて挑戦していますか」の問にも否定的な意見が全国平均を上回っています。

また「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じていましたか」の問に「当てはまる」と答えた数値が全国平均を大きく上回っていました。自尊感情や達成感を高めることに取

り組んでいくと共に、コロナ禍で不安を感じている子どもたちへのフォローアップが必要です。

□ 「毎日、朝食を食べている」の数値は昨年に引き続き、全国平均を上回っており、食育の成果が感じられます。「普段どのぐらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）をしますか」の質問については2時間以上・3時間以上・4時間以上について、どの数値も全国平均より低い結果となっています。

□ 「家で自分で計画を立てて勉強をしている」の割合は2年前に引き続き全国平均を下回っており、家庭学習習慣の定着に課題が見られます。「学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか。」の数値も全国平均より低くなっています。児童が主体的に家庭学習に取り組むことができるために、今後はタブレットの持ち帰りも視野に入れる必要があります。

普段の読書量・家にある本の数、新聞を読む割合の3点はいずれも全国平均より大きく上回った数字となっています。各校における読書推進の、図書館サポーターの取組が実を結んでいるように思います。

□ 2年前は国語・算数とも学力調査の「解答時間が足りなかった」と感じている児童の割合が全国平均を大きく上回っていましたが、今年度は国語は上回っていましたが、算数は大きく下回っていました。算数が好き、算数の学習は社会で役に立つと思うといった質問の肯定的な回答も全国平均を上回っていました。

3 中学校について

(1) 学力調査

① 全体的な傾向

- 1 国語では、正答率が全国平均をやや下回りました。
- 2 数学では、正答率が全国平均をやや上回りました。
- 3 英語は、調査が実施されませんでした。
- 4 解答欄に記入がない無解答率は、全国平均を下回りました。

② 結果分析等の概要

□ 国語

「質問の意図を捉えることができる」、「書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く」、「書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考慮することができる」等、話すこと・聞くことの設問について、全国平均を上回っています。また「文脈に即して漢字を正しく読むことができる」、「事象や行為などを表す多様な語句について理解している」、「相手や場に応じて敬語を適切に使うことができる」等「言語についての知識・理解・技能」を問う問題についても全国平均を上回っており、各校においてきめ細やかで継続的な指導の成果と思われます。

一方、「文脈の中における語句の意味を理解している」、「場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解している」ことについての正答率は全国平均を大きく下回っており、「読むこと」に課題が見られます。また、「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるようにかくことができる」の設問も正答率が全国平均を大きく下回りました。これは最後の設問であったとともに、無回答率も大変高かったことから、時間の不足が原因として考えられます。今後は、生徒たちが自分の言葉で、根拠を明確にして書くといった指導を充実させていくこととともに、試験における時間配分等の指導も必要です。

□ 数学

「数式の加法と減法の計算」、「具体的な場面で、一元一次方程式をつくる」「与えられたデータから中央値を求める」など基本的な「数学的な技能」について、全国平均を大きく上回っています。2年前も同様の傾向がみられており、基礎・基本を大切にされた指導の成果であると考えられます。

また数量や図形などについての知識・理解についての問題については、「与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取る」や「錯角が等しくなるための、2直線の位置関係を理解している」等についての正答率が全国平均を大きく上回っています。

一方、「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する」、「平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることに理由を説明する」など、「数学的な見方や考え方」に関する問題について正答率が全国平均よりも下回っていました。

生徒質問紙においても「数学の勉強は好きである」、「数学の授業で学習したことは社会に出たときに役に立つと思う」といった設問においても肯定的な意見が全国平均を下回っていました。今後は、数学的な知識を分かりやすく説明したり、表現したりする、主体的・対話的な授業の推進が求められます。

(2) 質問紙調査

- 小学校と同様に、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と捉えている生徒は2年前に引き続き全国平均を大きく上回っています。一方「学校に行くのが楽しい」の質問に否定的な回答は全国平均を若干下回りました。
- 「学校の授業以外（平日）の1日あたりの読書時間」について2年前の調査では全国平均より少ない傾向でしたが、今回は読書時間・新聞を読んでいる生徒の割合も、全国平均を大きく上回りました。これは小中共にみられる傾向であり、各校及び図書館サポーターの取組の成果と思われます。
- 「普段どのぐらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）をしますか」の質問については小学校同様、全国平均より少ない結果となっています。
また「家で自分で計画を立てて勉強している」、「学校の授業時間以外に、1日あたり（平日）2時間以上勉強をしている」と回答した生徒の割合は2年前に引き続き、全国平均を上回っています。
- 国語・数学の両方で、学力調査の解答時間が足りなかったと回答している生徒の割合が全国平均を大きく上回っており、問題を速く正確に読み取る力の育成に取り組む必要があります。

4 今後の対策について

- 1 各校ごとに調査結果を分析し、自校の課題を把握するとともに、改善策について全教職員の共通理解を図り、組織的に学力向上に向けた取組を推進します。
- 2 G I G Aスクール構想の実現に向け、1人1台端末等、ICTの有効活用を図るため、教員研修の実施や大型提示装置の整備など、ソフト・ハードの両面からの支援を図ります。
- 3 市の指定研究事業の活性化を図り、主体的・対話的で深い学びを実現するための、ICTを活用した授業改善に関する研究を進め、その成果を普及することで、市全体の教員の授業力向上を図ります。
- 4 基本的な生活習慣や家庭学習の充実等に向けて、家庭との連携を図ると共に、各校のHPや学校だより等による情報提供に取り組みます。